

**各構成機関の平成 30 年度の取組状況及び**  
**令和元年度の取組等について**

### 【広島市自主防災連合会】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知 　　る	○ まちあるきや防災マップの作成等を通じて、地域の災害危険箇所、避難場所や避難経路などを確認	継続して取り組む
察知する	○ 災害時における地域の連絡網に固定電話に携帯電話を加えた情報伝達連絡網を作成 ○ 広島市防災情報メールの登録奨励などを通じた、災害時に必要な情報の伝達・共有	継続して取り組む  ○ 防災受信機の利用促進 ○ Webカメラ設置の検討
行動する ・ 学 　　ぶ	○ まちあるきや防災マップの作成等による災害危険箇所等の確認（避難経路上の危険箇所や迂回路の有無などを含む。） ○ 自主防災組織等による防災訓練や防災研修会の開催 ○ 地域の各種団体と連携した防災訓練、地域の特性を踏まえた防災訓練の実施 ○ 子供も楽しめる防災訓練・フェアを実施	継続して取り組む
備 　　える	○ 避難場所までの避難が困難な場合などに備えて、一時緊急退避施設（商業施設（駐車場、マンション、社宅等）を確保	継続して取り組む

#### <課題等>

- 地域の災害環境により住民の防災意識に温度差があるため、防災マップの作成に意欲的ではない地域への働きかけについて課題が残る。

### 【広島県消防協会】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知 　　る	○ 地域と連携した、ハザードマップ等を活用した防災訓練による災害危険箇所等の確認	継続して取り組む  ○ 地域住民の方と消防団（団員）と一緒にハザードマップ等を活用して、まち歩き等を実施し、危険箇所等の確認
察知する	○ 県、市町等が発表する防災・避難情報の伝達手段及び住民の自主避難体制の構築	継続して取り組む
行動する	○ 避難行動要支援者の把握及び避難訓練の実施	継続して取り組む
学 　　ぶ	○ 地域で日常的に行われている行事にあわせた訓練の実施（例：とんどでの消火訓練、炊き出しなど） ○ ホームページを活用し、市町で独自に取り組んでいる活動の紹介	継続して取り組む
備 　　える	○ 消防団が所有する機械器具を活用した避難支援体制の構築	継続して取り組む

### 【広島県女性防火クラブ連絡協議会】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知 　　る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主防災組織等と連携し、防災マップの作成及び災害危険箇所を確認</li> <li>○ 地域、行政等と連携し、地域住民に対して災害危険箇所などの確認を働きかけ</li> </ul>	} 継続して取り組む
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害発生の危険性を察知した際には、近隣への声かけによる避難誘導をきめ細かく実施</li> </ul>	
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域住民とのつながりを深めるため地域で開催される防災訓練等への積極的な参加</li> <li>○ 日頃から、日常会話の中で、防災に関心を持ってもらえるよう取組を実施</li> <li>○ 他県との交流を行い、防災設備の見学等を実施</li> </ul>	} 継続して取り組む
学 　　ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主防災組織、消防団等と連携し、防災訓練等に積極的に参加</li> </ul>	
備 　　える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 非常持出品（非常持出袋）の備えを促進</li> </ul>	継続して取り組む

#### <課題等>

知 　　る◆	マップは個々の家庭でしっかり利用していると思えない。
察知する◆	更なる声かけが必要
学 　　ぶ◆	自主防災会からの女性防火クラブへの協力要請がほしい。

### 【広島県社会福祉協議会】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
学 　　ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市町社協が実施する災害ボランティア講座等を通じて、防災・減災につながる住民同士の支え合い活動（例；地域における見守り活動など）を啓発・推進した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域における防災・減災活動の推進支援 市町社協等が実施する災害ボランティア講座等を通じて、7月豪雨災害を踏まえた防災・減災につながる平常時からの住民同士の支え合い活動（例；地域における見守り活動など）づくりを支援する。</li> </ul>
備 　　える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 7月豪雨災害における県内被災地災害ボランティアセンターへ本会職員及び県内外社協からの運営支援者の派遣調整やボランティアバス・船の運行による県内外ボランティア活動者の搬送を行った。 ・運営支援者派遣 延べ6,346人 ・ボランティア活動者搬送 延べ3,110人</li> <li>○ 7月豪雨災害における県内被災地災害ボランティアセンターへボランティア活動用の資機材貸出しを行い、不足分については、県外ストックヤードからの需給調整を行った。 ・支援市町；10市町ボランティアセンター</li> <li>○ 県被災者生活サポートボラネットワーク推進会議を開催し、7月豪雨災害への県域ネットワークによる対応状況についてふりかえりを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害ボランティア活動に係る資機材ストックヤードの維持管理 → 県域の資機材ストックヤードを運営し、県内外の災害時における被災地支援活動の際に活用するとともに、平常時における関係訓練等で活用する。 また、7月豪雨災害を踏まえ、ストックヤードを増設し、供給体制の拡充を行う。</li> <li>○ 被災者生活サポートボランティアネットワークの強化 → 7月豪雨災害における支援活動を踏まえ、災害時におけるボランティアネットワークの強化を推進する。</li> <li>○ 災害時における福祉分野の相互支援体制等の構築 → 7月豪雨災害における支援活動を踏まえ、被災施設や被災者の支援について、福祉分野の関係団体等が相互に協働して取り組む体制の構築を支援する。</li> </ul>

#### <課題等>

○	大規模災害に備えた、民間企業や各種団体とのネットワークの拡充
---	--------------------------------

【広島大学】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 30 年度新入生に防災に関するチラシ及び教材 3 種類（総ぐるみ運動、地震・津波、風水害・土砂災害編）を配布した。</li> <li>○ 学内で作成する「安全衛生マニュアル」及び学内電子掲示板に、災害危険箇所を知るための情報（広島県防災 Web、ハザードマップ、県民総ぐるみ運動ポータルサイト）の URL を記載した。</li> <li>○ 外国人新入生のために、広島県が作成している防災啓発冊子（英語版）を配布した。</li> <li>○ 各附属学校の全児童・生徒・職員に一斉防災教室の教材を配布した。また、電子掲示板で学生・職員に教材等を紹介した。</li> <li>○ 行政等が発信する情報（災害危険箇所等の確認）について、学内電子示板及びメール等で学生・職員に対して情報提供を行った。</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学内電子掲示板に外国人教職員のために、広島県が作成している 6 か国語の防災啓発冊子が掲載できる URL を掲示</li> </ul>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学内電子掲示板で、学生・職員に対して県防災 Web の周知及び防災情報メール（県・市）の登録の促進を行った。</li> </ul>	<p>引き続き取り組む</p>
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害発生時の対応に係るマニュアルについて、学内掲示板に掲載するとともに、学生・職員に対して周知徹底した。</li> </ul>	<p>引き続き取り組む          （マニュアルについては、現状に沿った見直しを行う。）</p>
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学内での防災訓練を継続して実施し、防災体制の確認、自衛消防隊の動きについてシミュレーションを行うとともに、非常用物品の取り扱いなどの周知を図った。</li> <li>○ 学内電子掲示板に非常用物品の取り扱い方法や防災情報等を掲載した。</li> <li>○ 学生・職員への安全衛生教育で、地震対策・防災情報等について周知を行った。</li> </ul>	<p>引き続き取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 東広島市総合防災訓練に参加することにより、防災意識の高揚を図る。</li> </ul> <p>引き続き取り組む          （情報は更新して掲載する）</p> <p>引き続き取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害に備えた危機管理の一環として、構成員を対象に安否確認訓練を実施（年 2 回）</li> </ul>
備える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定期的に衛生管理者及び産業医の巡視を行い、学校施設内設備の転倒防止対策・避難経路の確保等を確認・改善を実施</li> <li>○ 非常持出品の保管状況を確認し、補充等を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校施設内設備の転倒防止対策の実施及び避難経路の確保の確認に引き続き取り組む</li> </ul> <p>継続して取り組む</p>

備える	<p>○ 専門業者による防災管理点検を行い、改善が必要な箇所については是正した。</p> <p>○ 平成30年7月豪雨災害を受け、本学の教職員・学生への安否確認方法等の見直しを行った結果、「安否確認等マニュアル」の改訂、また「安否確認手順書」を新たに作成し、教職員等に周知した。</p> <p>広島大学防災・減災研究センター関係</p> <p>○平成30年9月20日、広島大学では平成30年7月豪雨災害を踏まえ、従来の防災学・減災学では対応できない相乗型豪雨災害の調査研究に取り組むため、新たな学際的研究集団組織として「広島大学防災・減災研究センター（HRRC）」を設置した。</p> <p>○このセンターでは、国や自治体、企業、地域住民等と連携し、相乗型豪雨災害に関する調査・研究の実施、各自治体の豪雨災害検証委員会等への参画、防災・減災に係る公開講座や連携自治体会議の開催、防災体験・訓練用VR(仮想現実)ソフト開発(土砂災害)などを行い、研究成果の地域社会への還元、各種政策への反映等に取り組んだ。</p>	<p>○ 「安否確認等マニュアル」及び「安否確認手順書の改定」に引き続き取り組む</p> <p>○前年度に引き続き、相乗型豪雨災害のメカニズムの解明や災害を未然に防ぐための早期検知システム等の開発、災害に強いまちづくりの支援、研究成果の情報発信、人材育成等に取り組む。公開講座、連携自治体会議、研究報告会、センター設置1周年記念シンポジウムなどを予定。</p>
-----	--	--

<課題等>

○ 安否確認の重要性について、訓練を通じて、継続的に構成員へ周知徹底する必要がある。

**【広島県私立中学高等学校協会】**

行動目標	H30年度の実施状況等	令和元年度の実施状況等
知る	○ 当協会の主催する会議や行事等の機会において、会員に対して、災害危険箇所、避難場所、避難経路の確認等に係る取組を促進	継続して取り組む
備える	○ 私立学校相互の災害時における助け合いのネットワークについて検討を行う。	継続して取り組む

<課題等>

○ 各校、各学園にて取組状況が違っており、一元化するには、各校の更なる理解が必要

**【広島県PTA連合会】**

行動目標	H30年度の実施状況等	令和元年度の実施状況等
知る	○ 会員情報紙の発行などの機会を捉え、会員に減災への取組を周知	○ PTA 新聞等による災害対応の情報提供、PTA 各種会議などでの経験や知識の交流を行う。

察知する	○ 県や市町が取り組んでいる「防災情報メール通知サービス」の周知などを行い、災害の危険性をいち早く察知するために必要な手立てについて情報提供する。	○ テレビやラジオなどのマスメディア、行政放送、防災メールなど様々なツールを活用し、災害を察知するとともに、子供にもツールの活用方法を指導しておく。
行動する	○ 学校等で実施される「防災」の取組と連携し、「一斉防災教室」の教材等を家庭教育の中でも活用し、子どもの安全を守る取組を行うよう啓発する。	○ 「てんでんこ」の精神のように、災害が起こったら、誰かからの指示待ちではなく、自分で判断して、自分の身だけは守る姿勢を子供に培う。
学 ぶ	○ 地域の防災訓練などに参加し、防災について学び、災害への備えができるよう呼びかける。	○ 学校とPTAが連携し、防災に関する研修会等を実施し、災害が起こった時に必要なことを親子で学ぶ。
備 える	○ 防災関連の情報が提供された場合には、随時各郡市PTAに伝達する。 ○ また、役員会等の機会を捉え、各単位PTAなどの取組を共有する。	○ いろいろな災害についての知識や避難方法を親子で共有し、災害が起きた時の対処方法を事前に共有しておく。

<課題等>

行動する◆	<p>昨年の豪雨災害では被害にあった多くの人々が「まだ大丈夫と思った」と回答している。独自の判断力を培う上で、「避難開始」「避難場所」の判断を親子ともにどの時点・状況で行うかという基準を家族内できちんと確立しておくことが必要</p>
-------	--

**【広島県商工会議所連合会】**

行動目標	H30年度取組状況等	令和元年度取組等
知 る	主催会議や行事等の機会を通じ、会員に対し、災害危険箇所、避難場所・経路の確認が進むよう取組を促す。	継続して取り組む。

**【広島県商工会連合会】**

行動目標	H30年度取組状況等	令和元年度取組等
知 る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 会員（34商工会）に対し、「危機管理マニュアル」の策定を促した。  <span style="font-size: 2em;">{</span> マニュアルサンプルは提供しているが、独自マニュアルの整備まで取り組んでいる商工会は殆ど無い <span style="font-size: 2em;">}</span></li> <li>○ 会員（34商工会）に対し、現有する「危機管理マニュアル」及び、「有事の際の初期動作についての確認を促すマニュアル」の再点検を促し、有事の際の初期動作についての確認を促した。</li> </ul>	} 継続して取り組む
学 ぶ	○ 商工会事務局長会議において、7月豪雨災害の被災商工会を中心に災害対応等を検証するための研修会を開催	
備 える	○ 危機管理マニュアル未策定商工会に対し策定の促進	継続して取り組む <span style="font-size: 2em;">{</span> 平成30年の災害対応の検証等を踏まえ、危機管理マニュアルの内容を再検討するとともに、全商工会におけるマニュアル整備に取り組む。 <span style="font-size: 2em;">}</span>

備える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害時等における緊急連絡体制の構築</li> <li>○ 連絡網を作成し、管理職へ配布</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p> <p>〔災害発生時に県内職員の安否や出勤可否確認等に苦慮したことから、社内SNSによるコミュニケーションツールの構築に取り組む。〕</p> <p>継続して取り組む</p>
-----	---	---

### 【広島県農業協同組合中央会】

行動目標	H30年度の実施状況等	令和元年度の実施状況等
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 会員組合（13JAと連合会）に対して、会議や研修会等の機会を利用して、災害危険箇所、避難場所、避難経路の確認などを周知</li> <li>○ H30.5.24「JA女性部会」研修会にて、県の実施する「女性のための防災プログラムトレーナー養成」事業の説明会を開催（於：女性部長・事務局合同会議、35名参加） → 防災教室「ひろしま」プログラムを開催し、トレーナー養成講座（6月～7月、県内3会場）の参加につながった。</li> </ul>	継続して取り組む
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員研修を通じた、職員に対する防災の意識づけについて、継続して取り組む <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JA助けあい組織代表者・事務局合同会議合同研修会の開催</li> <li>①西日本豪雨災害におけるJA組合員組織の活動報告</li> <li>②地域防災力の向上に向けて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害に備えて地域防災力の担い手「防災士」の紹介</li> <li>・ 養成について</li> <li>・ Jカードを使った防災教室の紹介</li> </ul> </li> <li>③その他</li> </ul> </li> <li>○ H30.10.30 光年部交流会の開催</li> <li>① 防災グッズ（防災ブレスレット）の作成等</li> </ul>	継続して取り組む

### 【広島県宅地建物取引業協会】

行動目標	H30年度の実施状況等	令和元年度の実施状況等
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 不動産取引の機会を捉えた防災情報の周知</li> <li>○ 協会が実施する研修会・講習会等において、会員へ「みんなで減災」県民総ぐるみ運動について周知し、協力を依頼 → 宅地建物取引士を対象とした法定講習会（年16回開催）において、県の担当職員から、「自然災害と防災に関する説明義務」と題して、物件取引時の説明内容等について、周知を行うとともに、「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」パンフレットの配布を行った。</li> <li>○ 当協会ホームページに「防災WEB」のバナーを掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 継続して、「不動産取引の機会を捉えた防災情報の周知」と「みんなで減災」県民総ぐるみ運動について、当協会が実施する研修会・講習会等で会員に周知徹底し、全会員の理解と履行協力を求める。</li> </ul>

備える	<p>○ 当協会が県内市町と締結した次の協定に基づき、転入の機会を捉えて転入者に自治会等へ入会するよう働きかけることなどにより、会員を通じた、減災につながる地域の結びつきの強化に取り組む。</p> <table border="1"> <tr> <th>市 町</th> <th>協会の名称</th> </tr> <tr> <td>広島市</td> <td>町内会・自治会等の加入促進に関する協力協定 (H28.5 締結)</td> </tr> <tr> <td>府中町</td> <td>町内会等地域活動の促進、防災・減災等に関する包括連携協定 (H30.1 締結)</td> </tr> </table> <p>→ 福山市及び福山市自治会連合会と、「自治会・町内会の加入促進に関する協力協定」を締結 (H30.10.22 締結)</p>	市 町	協会の名称	広島市	町内会・自治会等の加入促進に関する協力協定 (H28.5 締結)	府中町	町内会等地域活動の促進、防災・減災等に関する包括連携協定 (H30.1 締結)	<p>○ 『町内会・自治会等の加入促進に関する協力協定 (広島市)』, 『町内会等地域活動の促進、防災・減災等に関する包括連携協定 (安芸郡府中町)』, 『自治会・町内会の加入促進に関する協力協定 (福山市・福山市自治会連合会)』を基に、引き続き、会員を通じて、減災につながる地域の結びつきの強化を行う。</p>
	市 町	協会の名称						
広島市	町内会・自治会等の加入促進に関する協力協定 (H28.5 締結)							
府中町	町内会等地域活動の促進、防災・減災等に関する包括連携協定 (H30.1 締結)							
<p>&lt;課題等&gt;</p> <p>知る◆ 当協会会員ならびにその従業員については、何らかの形でこの取り組みを理解いただいていると思うが、主催行事等あらゆる機会を捉えて継続実施する。          当協会は、平成22年12月24日に広島県との間で締結した『大規模災害時における民間賃貸住宅の媒介等に関する協定』に基づき、このたびの豪雨災害の被災者支援を行っている。          具体的な取組としては、被災者向け応急仮設住宅として、広島県が提示する諸条件に見合う民間賃貸住宅の情報提供、マッチングを行い、賃貸借契約を締結するというもの。          会員業者の協力もあり、広島県内で1,000件を超える物件情報が集まったが、当該被災地においては物件数に限りがあること、また媒介を行う会員業者の被災、広島県との諸条件面の対応調整等、被災者支援を行う上で苦慮する場面も多々見受けられた。          今回のような広島県内の広範囲で災害が起こった場合における初動体制の充実を図ることが、結果として、被災者の早期救済につながるものとなるので、広島県並びに関係市町と連携調整のもと、改善に向けた取組を行っていきたい。</p>								

**【全日本不動産協会広島県本部】**

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知る	<p>○ 会報誌に、不動産取引等の際にハザードマップ等による災害危険箇所の周知活動などの啓発記事を掲載し、全会員へ向けて取組を促進</p> <p>○ 県担当者を講師に招いての、会員に対する、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の取組の周知            → 法定研修会において『『みんなで減災』県民総ぐるみ運動について』、「防災情報ハザードマップの周知について』の説明を県担当者に依頼            ([東部地区] 9/3, [西部地区] 9/4)</p> <p>○ 協会ホームページのトップページに、防災に関する行政機関のホームページのバナーを掲載</p>	<p>○ 会報誌に、不動産取引等の際にハザードマップ等による災害危険箇所の周知活動などの啓発記事を掲載し、全会員へ向けて取組を促進</p> <p>○ 県担当者を講師に招いての、会員に対する、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の取組の周知</p> <p>○ 協会ホームページのトップページに、防災に関する行政機関のホームページのバナーを掲載</p>
備える		<p>○ 広島市・福山市と締結した「町内会・自治会等の加入促進に関する協力協定書」に基づき、入居世帯への町内会・自治会加入の働きかけに協力するよう会員に周知</p> <p>○ 広島県と締結した「大規模災害時における民間賃貸住宅の媒介等に関する協定書」に</p>



備える		に基づき、災害が起こった際に迅速に対応できるように当協会独自のマニュアルを作成
-----	--	---

<課題等>

- ◆ 行政からの周知依頼が他にもあり、限られた発行回数、限られた誌面にすべて掲載できない。
- ◆ 会員に周知できているか確認が難しい。

**【株式会社NTTドコモ中国支社】**

行動目標	H30年度 of 取組状況等	令和元年度の取組等
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業所周辺の避難場所・避難経路を確認 → 各拠点の避難訓練による場所経路の確認を継続（島根支店：6月、鳥取支店：9月、広島：11月/3月、山口支店：3月、岡山支店：3月）</li> <li>○ 台風・大雨・大雪等の災害対応時に避難所開設情報や市町村の災害対策本部設置状況をコモンズビューワにより情報収集実施 → 7月豪雨災害時、コモンズビューワ及び自治体へのリエゾン派遣により、避難所開設状況やドコモへの要望等の情報収集を実施</li> <li>○ 防災機関との連携強化による情報収集（道路警戒情報、災害対策拠点病院等） → 第2回中国地方道路啓開等協議会（5月）、「平成30年度中国地方非常通信協議会総会（6月）」、中国地方の防災に関する連絡会（12月）、広島市防災会議（3月）等への出席により防災機関との連携強化を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業所周辺の避難場所・避難経路を確認する。</li> <li>○ 台風・大雨・大雪等の災害対応時に避難所開設情報や市町村の災害対策本部設置状況をコモンズビューワやリエゾン派遣により情報収集を行う。</li> <li>○ 防災機関との連携強化による情報収集を行う。（各種防災会議等への出席）</li> </ul>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 緊急速報メールの認知度向上、利用促進 → 各自治体の防災訓練への参画と関係機関への緊急速報メールの活用事例の紹介と利用推進を実施 「広島市西区ブロック研修会」（2月）で緊急速報メール、災害用伝言板等の使用方法の説明と利用促進を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自治体の防災訓練参加やドコモ防災ハンドブック配布施策により、緊急速報メール・災害用伝言板等の認知度向上を図る。</li> </ul>
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 台風や大雪等の災害が予測される場合に迅速な対応ができるよう、社内各組織の災害対策リーダーに対する事前準備依頼と情報の展開 → 台風接近情報、大雨特別警報発生時に社内災害対策態勢を構築し各組織の災害対策メンバーとの連絡体制を構築7回実施（台風7, 12, 20, 21, 24, 25号, 7月豪雨）</li> <li>○ ドコモの災害対策への取組を理解していただき、連携強化を図ることを目的とした社外（防災関係機関、報道等）説明会の実施 → 山口で開催（2月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 台風や大雪等の災害が予測される場合に迅速な対応ができるよう、社内各組織の災害対策リーダーに対する事前準備依頼と情報の展開を行う。</li> <li>○ ドコモの災害対策への取組を理解していただき、連携強化を図ることを目的とした社外（防災関係機関、報道等）説明会を実施する。 ・ 地方創生セミナー：広島（5月）、鳥取（6月）、山口（7月）、島根（8月） ・ 記者向け説明会：広島（6月）、岡山（6月）</li> </ul>

行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害時における携帯電話の有効な活用方法の理解浸透を図るため、ドコモ防災ハンドブック配布 → 中国管内全ドコモショップや各自治体の防災訓練、ケータイ安全教室などで防災ハンドブックを配布(3万部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害時における携帯電話の有効な活用方法の理解浸透を図るため、ドコモ防災ハンドブック配布施策を実施する。(9月)</li> </ul>
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 従業員を対象としたシェイクアウト訓練による「緊急速報メール」を受信した場合の行動確認と「社員安否確認」 → 全社員へのシェイクアウト訓練時に安否確認訓練を実施(8月)</li> <li>○ 全従業員対象の災害対策に関する Web 研修の実施 → Web 研修実施 (9月, 3月)</li> <li>○ 中国支社グループ社員に対し防災士資格の取得を推進 → 防災士資格取得に向けた集合型研修を計画(1月, 新規 88名, 累計 140名取得)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 従業員を対象としたシェイクアウト訓練による「緊急速報メール」を受信した場合の行動確認と「社員安否確認」を実施する。</li> <li>○ 全従業員対象の災害対策に関する Web 研修を実施する。</li> <li>○ 中国支社グループ社員に対し防災士資格の取得を推進するため、ドコモ大手町ビルでの集合型研修を実施する。</li> </ul>
備 える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害発生時、迅速な設備・エリア復旧を可能とする災害対策車両の増配備。 → 迅速な出勤・設営が可能な小型衛星移動基地局車 1台、電力救済を想定した発電機積載車 3台を増配備。</li> <li>○ 災害対策について自治体と連携強化を図るため、有事の際に提供できる優先電話貸出等や、自治体をお願いしたいことについて、自治体向けパンフレットで説明 → 7月豪雨災害時、自治体から要望のあった携帯端末をタイムリーに貸出</li> <li>○ 災害発生時に連携する防災関係機関(陸上自衛隊、海上保安庁等)との訓練を実施 → 陸上自衛隊と 1回(2月)、海上保安庁と 3回(10月、2月、2月)の合同訓練を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害対策について自治体と連携強化を図るため、有事の際に提供できる優先電話貸出等や、自治体をお願いしたいことについて、自治体向けパンフレットで説明する。</li> <li>○ 災害発生時に連携する防災関係機関(陸上自衛隊、海上保安庁等)との訓練を実施する。</li> </ul> <p>【7月豪雨災害を受けての取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害発生時、今まで以上に迅速な設備・エリア復旧を可能とするために、災害対策車両を2台増配備する。</li> <li>○ 広域かつ長時間停電への備えとして、災害時にもお客様へ継続的な携帯電話充電サービスが提供できるように、ドコモショップ全店舗に対して蓄電池や無料充電器(マルチチャージャー)を設置する。</li> <li>○ 自治体・指定公共機関・避難所等への無料貸し出し端末の要請数増加、ニーズ変化に追従できるように、無料貸出用端末の台数や種類を増配備する。</li> <li>○ 避難所支援用の無料充電器(マルチチャージャー)や無料Wi-Fiを増配備する。</li> </ul>

<課題等>

- ◆ 各事業者が迅速に復旧活動を行うためには、自治体様や各種防災関連機関様との連携は必須であるため、更なる連携強化に向けたご協力をお願いしたい。

【KDDI 株式会社中国総支社】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知 る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中国地区の防災情報を広く入手できるよう、社員向けHPに「中国の防災に関するポータルサイト/中国地方整備局」にリンクを張っている。</li> </ul>	引き続き取り組む
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全社規模で、毎月初日の安否確認メールにより、非常時における社員との連絡体制に漏れがないか確認を実施</li> <li>○ 上記とは別に地区主導で、社員状況を確認する安否確認メールの実施（上半期1回、下半期1回）</li> <li>○ 「中国の防災に関するポータルサイト/中国地方整備局」から各自治体HPの情報を収集できるようにした。</li> </ul>	引き続き取り組む
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発災時、勤務者等の安否確認や通信サービス継続、被災地支援等を規定に基づき実施</li> <li>○ 豪雨災害により実災害の対応実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災地支援機器の不足分は、他地域の機器にて補充。</li> </ul> </li> <li>○ 本社主導の防災訓練は、TV会議システムで全国の主要拠点を接続して、訓練の様態を視聴。発災後にすべき事と問題点を学習</li> <li>○ 自治体の総合防災訓練に参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>当社の防災への取組や被災地での通信環境を整備するための機器や避難所支援装備の展示により、一般市民への防災意識向上に努めた。</li> </ul> </li> <li>○ シルバー層向けのスマホ教室での災害対策サービス紹介を実施。</li> </ul>	引き続き取り組む
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「災害用伝言板体験サービス」を毎月1日と15日に提供し、お客様に体験頂いた。</li> <li>○ 社員はEラーニングにより災害対策マップの活用方法を学習</li> </ul>	引き続き取り組む
備 える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害担当には、全国の地震発生情報が自動的に発信され、発災後の行動に備えている。</li> <li>○ 各県の総合防災訓練に参加</li> <li>○ 陸上自衛隊、海上保安庁等の関係機関と連携し、実践を意識した訓練を継続して実施</li> <li>○ 引き続き、災害発生時の通信環境を維持するために装備の充実に努め、災害対策備蓄品の点検及び入れ替えや被災地支援機器の点検、動作確認を実施。</li> <li>○ ビル管理会社と連携した避難訓練を実施</li> <li>○ 災害掲示板（社内用）を充実させ、各本部の災害対応などの情報一元化を実施</li> <li>○ 災害マップ（社内用）を構築。被災地の地図上に、社員が入手した現地情報を入力することで、よりリアルな独自のハザードマップ作成を可能なものとした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地で災害発生により運用実施</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害時に通信サービスを早期復旧するため、車載基地局や可搬型基地局を増設する。</li> </ul>

【ソフトバンク株式会社】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「災害時初動マニュアル（自社作成）」の内容確認, および社員が保持する業務用携帯電話への保存, 事前確認の推進（全社通達）</li> <li>○ 各拠点の火災発生時フロー, 急病人発生時フロー, 避難経路図, 備蓄品情報を集約掲載した, 社内専用ポータルサイト（通称：全国防火・防災ポータルサイト）の開設の運営に継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き取り組む</li> <li>○ 大規模災害, テロ, パンデミック等の有事に備えた情報共有ポータルサイトの開設</li> </ul>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 携帯電話販売店に「防災情報メール」説明用チラシを配置し, 携帯電話の更新・新規購入者への登録を促進</li> <li>○ 携帯電話販売店等に配置している「モバイル総合カタログ」の中に, 災害伝言板／音声お届けサービス, 緊急速報メールの説明を掲載し, 携帯電話の新規購入者・更新者への登録を促進</li> <li>○ 自社ホームページに災害伝言板／音声お届けサービス, 緊急速報メールの機能説明等の掲載・周知</li> <li>○ 社内専用ポータルサイト（全国防火・防災ポータルサイト）に防災関連アプリを紹介して, 登録を促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き取り組む</li> </ul>
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「災害時初動マニュアル（自社作成）」の内容確認, および社員が保持する業務用携帯電話への保存, 事前確認の推進（全社通達）</li> <li>○ 社内専用ポータルサイト（全国防火・防災ポータルサイト）に防災関連アプリを紹介して, 登録を促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き取り組む</li> </ul>
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「安否確認訓練」を実施し, 安否登録方法を全社員が体験</li> <li>○ 自社で作成した「災害時初動マニュアル」の内容について, 全社員に対し e ラーニングの受講を促進（全社通達）</li> <li>○ ホームページ等において, 災害用伝言板サービスなどの連絡手段を周知</li> <li>○ 全国の自治体主催防災訓練において, 緊急速報メールの配信, 災害用伝言板サービス, 災害用音声お届けサービスの利用方法を周知</li> <li>○ ホームページ等において, 緊急速報メールが, どのような時（地震, 避難勧告等）に発信され, 発信される情報内容（どのような行動をとればよいのかなど）や, どのように届くか（情報の種類による着信音の違い等）などを周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き取り組む</li> <li>引き続き取り組む</li> </ul>
備える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設内の設備の転倒防止対策や避難経路の確保</li> <li>○ 各事業者の防火・防災体制の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き取り組む</li> </ul>

【広島県バス協会】

行動目標	H30 年度の実施状況等	令和元年度の実施状況等
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ バスの車内に災害危険箇所、避難場所、避難経路等の確認を促す啓発を実施</li> <li>○ ポータルサイト「はじめの一歩」のポスターをバス車内に掲示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ バスの車内に防災に関する啓発ポスター等を掲示（ポスター等の提供があれば）</li> </ul>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災情報メール、広島県防災 Web などにて情報収集し、バス路線沿線の危険性を察知できるように、会員に対して、防災情報メールの登録を呼びかけ → 会報、メールマガジン、ホームページ等で会員に対して、防災情報メールの登録を呼びかけた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き、防災情報メール、広島県防災 Web などにて情報収集し、バス路線沿線の危険性を察知できるように、会員に対して、防災情報メールの登録を呼びかける。</li> </ul>
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広島県防災 Web などの情報を会員に対し周知 → 会報、メールマガジン、ホームページ等で会員に対して周知した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き、広島県防災 Web などの情報を会員に対し周知する。</li> </ul>
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ひろしまバスまつり」において、広島県へブース提供（H30.9.23 実施）</li> <li>○ 防災教室などがあれば積極的に参加するとともに、会員に対して参加の呼びかけを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ひろしまバスまつり」において、広島県へブース提供（2019.9.22 予定）</li> <li>○ 他機関に依頼し、防災教室を実施する。</li> </ul>
備える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 貸切バス事業者に対しても、広島県防災 Web などにて運行経路にある避難場所を事前に確認するよう促した。 → 会報、メールマガジン、ホームページ等で会員に対して確認を促した。</li> <li>○ 県からの依頼を受け、防災フェアの周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き、貸切バス事業者に対しても、広島県防災 Web などにて運行経路にある避難場所を事前に確認するよう促す。</li> </ul>

【広島県医師会】

行動目標	H30 年度の実施状況等	令和元年度の実施状況等
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ハザードマップやポスター等の医療機関の待合室等への掲示について、広島県や市郡地区医師会と連携し、掲示が促進されるよう方策の検討や取組の実施</li> </ul>	<p>） 継続して取り組む</p>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「広島県医師会速報」において、定期的に会員向けの防災意識・手順・サービス等の啓発を行った。</li> </ul>	
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 30 年西日本豪雨災害時に、JMAT（92 チーム）を組織した。</li> <li>○ 災害時、広島県の災害対策本部の医療関係会議に参加した。</li> <li>○ 保健医療活動など各種検証会を行った。</li> </ul>	<p>） 各種研修会や訓練などの実施を通じて、関係機関との連携を強化し、さまざまな医療面での対応方策を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 危機管理フォーラム 2019（5/19：日本医師会・NBCR 対策推進機構）</li> <li>・ マスギャザリング災害対策セミナー（7/25：日本医師会主催）</li> <li>・ 広島県集団災害医療救護訓練（11/3 予定：市立三次中央病院）</li> </ul>

学 ぶ		
備 える	○ 日本医師会主催の JMAT 研修（統括 JMAT 編）に参加し、演習を行った（3/24）。	

### 【広島県歯科医師会】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知 る	○ 新入会員に対しても、歯科医療機関の待合室等にハザードマップ等を掲示し、受診した患者に災害危険箇所等を周知するよう働きかけを行った。	○ 全会員に「＜新＞会員のための災害時ハンドブック」と「パンフレット」を送付し、万一の災害時への準備や対応の周知を図る。 ○ 「会員のための災害時ハンドブック」の中で『自然災害時に備える損害保険～歯科医院継続経営のために～』を掲載。効率的な損害保険の付保について周知を図る。
察知する	○ 災害情報を正確に会員の手許に届けるため、携帯電話への情報配信も実施（スーパーメーリングシステム） ○ また、未登録会員に同システムへの登録をしてもらうよう、メルマガや広報誌を通じて通知するとともに、システムの更なる有効活用策を検討	○ H31. 4. 9、現在スーパーメーリングシステムの登録率は全体で 36%、E-mail の登録率は 78%であることから、直接携帯に配信するスーパーメーリングシステムの登録率を上げるべく、新たに「災害に関するお知らせ」専用の配信情報種別を作成・案内し、登録率の向上を図ることを検討する。
行動する	○ 7月6日西日本豪雨災害時、本会として対策本部を立ち上げ、「身元確認チーム」と「口腔ケアチーム」を組織すると共に、支援物資を届けられるよう、行政と連携を図り支援体制を確立した。	○ 災害時に郡市地区歯科医師会から災害の状況や支援物資の要請等を把握し、スムーズに連携できるよう緊急連絡網やひな形を作成していくことを検討。
学 ぶ	○ 全会員に配布できる「災害時ハンドブック」を作成 ○ 災害時において、適切な行動のために必要不可欠となる、災害時指示系統の確認 ○ 新入会員を対象とした、コンプライアンス推進室の個別面談や新入会員研修会等において、ハザードマップ掲示等、減災への取組の重要性を周知	○ 「＜新＞会員のための災害時ハンドブック」の中で、歯科医院としての備品チェック表を掲載。また、【大規模災害時の被災会員の行動フロー】により、実際に災害が起こった際のシミュレーションを歯科医院ごとに行えるよう作成。引き続き取組みの重要性を周知していく。
備 える	○ 必要な防災グッズ、備品等の備蓄 （災害対策の一環として、デンタルリンスを備蓄していたが、この度の豪雨災害で被災地に支援物資として送付したため、新たに支援物資を備蓄しておく必要も感じている。） ○ 平成 26 年に中国地区 5 県で締結した「危機事象発生時の中国地域歯科医師会広域応援に関する基本協定」について、南海トラフ大地震を想定して、この協定範囲を広げ、「中国・四国地区 9 県」で協定を交わした。（9/29 協定締結）	○ 必要な防災グッズと備品等の備蓄 （H30 年 7 月西日本豪雨災害を踏まえて、必要な防災グッズと備品等の備蓄の見直しを検討する。） ○ 全会員だけではなく、協定を交わした中国・四国地区 8 県（広島県を除く）へ「＜新＞会員のための災害時ハンドブック」と「パンフレット」送付し、広域応援の認識を高める。 ○ 安否確認システムの構築

#### <課題等>

知 る	◆ 前回と同様、実際の診療所における貼付状況を確認しておらず、患者さんがどの程度減災意識が高まっているかが不明である。
察知する	◆ スーパーメーリング登録率は、最低でも 80%以上を確保したい。 災害対策と言う面だけを考えれば、会員のみならずスタッフを含めた登録も考える余地はある。
行動する	◆ この度の災害は県内の広範囲であったため、県行政との連携だけではスピード感が足らず、もっと市町地域との連携の必要性を感じた。

- 学 ぶ◆ 「災害ハンドブック」は内容の充実は勿論だが、診療所に必携してもらえるような簡易版も必要であると考えます。
- 備 える◆ 備蓄は、本当に必要なものを備えることが大切であり、担当部としてしっかり精査する必要があります。協定書は交わすことが目的ではなく、万一の災害時に協定書に則り冷静・的確に行動することが大切であることを肝に銘じなければなりません。

**【日本放送協会広島放送局】**

行動目標	H30 年度 の 取 組 状 況 等	令 和 元 年 度 の 取 組 等
知 る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平時より、テレビ・ラジオの番組等において、防災・減災、気象に関する情報を提供               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西日本豪雨では多数回の臨時特設ニュースで警戒を呼び掛け。L 字放送を約 1 か月間、常時実施しライフライン情報を伝え続けた。</li> <li>・ 避難が必要な情報（ダム満水、ため池決壊のおそれ、河川の氾濫）によっては、速報スーパーをした後、縦の字幕（＝常時スーパー）を使って警戒・避難を強く呼びかけた。</li> </ul> </li> <li>○ 地震災害や豪雨、台風などの災害時にはテレビやラジオはもちろん、テレビのデータ放送やインターネットのホームページも活用して、きめ細かなライフライン情報を発信               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西日本豪雨の後の台風報道でも特設ニュースを多数回実施。L 字放送も随時、実施して警戒を呼び掛け。</li> </ul> </li> <li>○ 4 月の島根県西部の震度 5 強の地震では即座に特設ニュースを実施し中継した。</li> <li>○ 熱中症を予防するための高温注意情報をテレビ画面の常時スパーを使う等して発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 節目をとらえて西日本豪雨災害の教訓をくみとる報道を続ける。5 年前の土砂災害とあわせ地域の減災・防災を呼び掛け続ける。</li> <li>○ 新たな豪雨、台風、地震などの災害には臨時特設のニュースで身を守ってもらうための情報提供に取り組む。</li> <li>○ 訪日外国人の増加を踏まえ、L 字放送などで外国人向け放送への誘導を実施する。</li> </ul>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スマートフォン向けの『NHKニュース防災アプリ』の普及に努め、視聴者、県民のみなさんの災害察知力に貢献する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ニュース防災アプリ」はダウンロード（DL）呼びかけを強化した結果、DL 数は急増</li> <li>・ データ放送活用の呼びかけや避難用語の詳説を繰り返し実施</li> <li>・ 放送の中で行政の HP を活用させていただき危険察知に貢献した。</li> </ul> </li> </ul>	<p>継続して取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難を呼びかける「避難特設ニュース」※をさらに進化させる取組を継続</li> <li>※ 行政機関の HP を活用した記者解説やデータ放送、インターネット、アプリなどを通じて視聴者にご自分で周囲の様子を調べてもらう試み。</li> </ul>
行動する		

学 ぶ ・ 備 え る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広島放送局のホームページに「くらしと安全」を常時開設し、防災・減災に役立つ知識や情報を提供。</li> <li>○ 豪雨災害の訓練を実施（3月）</li> <li>○ L字放送の訓練を実施（5月）</li> <li>○ 絶えず地震や土砂災害などへの訓練を行い、職員やスタッフの意識を高める。</li> <li>○ 職員やスタッフの即応力をより高めるための企画を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西日本豪雨災害報道の教訓を共有する取り組みを実施。</li> <li>○ ライフライン放送やL字放送の訓練を実施予定（6月）</li> <li>○ 定期的に地震に備えた訓練を行う。</li> <li>○ 職員やスタッフの即応力をより高めるためスマホを活用した中継を定時ニュースにコーナーとして設けた。</li> <li>○ 広島放送局のホームページに「くらしと安全」を常時開設し、防災・減災に役立つ知識や情報を提供。</li> </ul>
----------------------------	--	--

<課題等>

知	<p>る◆ 県民の方々にいかにして避難してもらうか、報道の内容、呼びかけの仕方は一層検討が必要。どこで被害が出ているか、あるいは出そうなのか具体的に把握する体制をより充実させる必要がある。</p>
行動する・備える	<p>◆ 地震、大雨災害への即応力をより高める必要がある。</p>

【株式会社中国放送】

行動目標	H30年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知 る 察 知 す る 行 動 す る 学 ぶ 備 え る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ JNN系列を上げての災害対応策にかかる継続的協議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各局の担当デスクが、放送内容、放送機材、取材の安全策、番組編成上の課題、経費的な問題、各種の先進的な取組、失敗事例、他系列の動向など多様な問題について意見交換し、各局の対応策に反映</li> <li>・ RCCでは、災害対策の担当デスクや、社員気象予報士を中心に対策を進めた。</li> <li>・ また、記者やディレクターが各種の研修会に参加する他、その講師も務めた。</li> </ul> </li> <li>○ 夕方のニュース番組『RCCニュース6』や情報ワイド『イマなまっ!』では、防災・減災に向けた特集などを随時放送 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ また、災害発生の可能性がある場合は、気象情報を大幅に拡大して伝えた。（必要に応じて特枠も編成）</li> </ul> </li> <li>○ 7月豪雨時の報道取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>[発生前日 7/5~]</li> <li>・ テレビ画面でのL字情報送出を実施</li> <li>・ 各番組でも多くの時間を大雨情報に割り当て、大災害発生の危険性を伝えた。</li> <li>[7/6~]</li> <li>・ 早朝から特別な報道体制を構え、ローカル放送時間のほとんどを使って大雨情報を伝えた。</li> <li>・ 公共交通機関への影響についても詳しく伝え続けた。</li> <li>・ L字放送は終日継続</li> <li>・ 夕方の時間帯には災害発生現場からの記者の中継レポートを入れたほか、広範囲で土砂崩れや河川氾濫などの危険が高まっていることをリアルタイムで伝えた。</li> <li>・ 夜の時間帯にはRCCでは初めてとなるインターネットでの緊急特別番組（RCCとTBSのサイト、動画サイト、CS放送に同時配信）を実施</li> <li>・ またRCCラジオは、被災地域が停電していたこともあり、命綱の情報ツールとして夜通し放送を続けた。</li> <li>[7/7~]</li> <li>・ 自社ヘリを飛ばし、県内の被災状況を上空からの映像とレポートで全国に発信</li> </ul> </li> </ul>	<p>引き続き災害報道、防災情報に力を入れ、スタッフ研修、番組制作などに継続して取り組む。</p> <p>報道機関として、行政の災害対応、防災施策に問題はないかも含めて、しっかりと取材、報道する。</p>



<p>知る</p> <p>察知する</p> <p>行動する</p> <p>学ぶ</p> <p>備える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テレビ放送では可能な限りのローカル特番を編成し、『RCC豪雨災害情報』として随時放送</li> <li>・ レギュラー生番組の全枠を使って災害情報を伝えたほか、1時間の特番の放送を続け、ローカル枠だけで毎日約4時間、災害情報を放送した。特に被災者に向けた生活情報を多く伝えるようにした。</li> <li>・ L字放送で送出した情報は、自社の災害サイトにも同時配信し、被災者がいつでも情報を確認できるようにした。</li> <li>・ また、テレビ画面にはQRコードを表示し、サイトにアクセスしやすいようにした。</li> </ul> <p>○ 豪雨の検証や被災者の暮らしを伝える特集企画などは随時放送</p> <p>10月には、岡山や愛媛の局と合同で、豪雨災害についての番組を制作した。</p> <p>○ 西日本豪雨災害でのあらゆる経験を今後に生かすため、関わった報道スタッフの報告文書を冊子にまとめ、社内で共有した。</p>	
--	---	--

### 【株式会社テレビ新広島】

行動目標	H30年度の実績状況等	令和元年度の実績等
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県の防災の取組に関する情報や、防災に関する様々な情報を、日頃のニュースや「満点ママ」の月1防災企画などで提供</li> <li>○ 行政機関や広大等研究機関が取り組む、豪雨災害時の避難行動の在り方の検証について、広く周知できるよう対応</li> </ul>	<p>） 継続して取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害の危険度を5段階に分けた危険度情報について番組内で解説し、早めの避難行動を促す</li> </ul>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 注意報・警報などの情報をテレビの字幕で周知</li> <li>○ 災害情報等をテレビの字幕放送（L字放送等）で周知</li> </ul> <p>〔L字放送の実施〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7/5(木) 17:48-21:57</li> <li>・ 7/6(金) 05:00~7/07(土) 18:55</li> <li>・ 7/8(日) 09:30~8/04(土) 10:19</li> </ul> <p>※6:00~夕19:00を中心に送出</p> <p>〔L字の内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発災前:「気象情報・警報・避難勧告・避難指示・避難所情報」</li> <li>・ 発災直後:「避難指示・避難所情報・インフラ情報」</li> <li>・ 発災後:「インフラ情報・ボランティア情報・被災者支援情報」</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害時には、本放送だけでなく、データ放送やホームページ等を活用し、きめ細やかな情報を迅速に提供</li> <li>○ 正確な情報を早くわかりやすく、テレビ、</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p> <p>継続して取り組む</p> <p>） 継続して取り組む</p>

	<p>ホームページを通じ、繰り返し伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ テレビ番組で県防災 Web による土砂災害危険度情報の確認方法などを啓発</li> <li>○ 大雨洪水警報や避難勧告などが出た場合、自局ホームページなどによる情報提供</li> <li>○ 特番放送の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7/5 (木) 20:54~21:00 「TSS プライム ニュースナイト・大雨警戒」</li> <li>・ 7/5 (木) 24:23~24:25 「プライムニュースα内ローカル枠生対応・大雨警戒」</li> <li>・ 7/6 (金) 06:06~06:07 「めざましTV内ローカル枠生対応・土砂災害警戒」</li> <li>・ 7/6 (金) 22:52~22:54 「広島県に大雨特別警報」</li> <li>・ 7/6 (金) 25:00~25:35 「TSS 報道特番 広島県に大雨特別警報」</li> <li>・ 7/7 (土) 12:00~12:55 「TSS 報道特番 記録的大雨 広島に甚大被害」</li> <li>・ 7/8 (月) 16:47~17:53 「TSS プライム ニュース・豪雨災害」※ローカル枠拡大</li> <li>・ 7/13 (金) 16:47~17:53 「TSS プライム ニュース・豪雨災害」※ローカル枠拡大</li> <li>・ 7/14 (土) 10:25~11:25 「TSS 報道特番 広島豪雨災害・今起きていること」</li> <li>・ 8/4 (土) 10:25~11:25 「TSS 報道特番 広島豪雨災害～命を守るために」</li> </ul> </li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>
<p>行動する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日頃から、より防災・減災を意識したテレビ番組内での情報露出の強化</li> <li>○ 災害に備え具体的にどう行動するのかを意識してもらうための啓発</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>
<p>学 ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通常のニュースに加え、特集などで災害の原因に迫るとともに、土砂災害警戒区域の指定や被災者支援などを検証</li> <li>○ 報道を通じ、県民に防災・減災について考えてもらう素材を提供</li> <li>○ 自局のホームページで、防災・減災の知識や情報を提供</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>
<p>備 える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自局のホームページで、防災・減災に関する情報を提供</li> <li>○ 災害発生の危険性が高まる梅雨や台風シーズンは、テレビ番組で注意喚起</li> <li>○ 過去の災害発生日に合わせ、番組などで再度取り上げ注意喚起</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>

<課題>

<p>察知する◆ 避難所情報は開設された避難所名を全て表示した。Lアラートのテキストデータを修正して掲出した。避難を呼びかける文字情報など工夫が必要。発災後は、給水所情報など優先度の高いものを取捨選択して放送したが、自治体によってフォーマットが違っており、情報収集と入力に時間とマンパワーを要した。フォーマットを統一化し、情報コモンズで取得出来れば、市民が必要とする情報を早く、正確に伝えられる。</p> <p>◆ 新たに災害の危険度を5段階に分けた危険度情報が発出される。大雨や土砂災害、河川の氾濫等の危険度情報を的確に伝え、早めの避難に繋がられるよう取り組む。</p>
--

【広島テレビ放送株式会社】

行動目標	H30年度の実行状況等	令和元年度の実行状況等
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ニュースにおいて、土砂災害の特集を放送。</li> <li>○ 梅雨・台風シーズン及び大雪・寒波について番組内の天気コーナーやニュース内で注意喚起</li> <li>○ 津波の日、減災HPなどの紹介</li> <li>○ 「みんなで減災推進大使」の認知度の向上に取り組む</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">H29.4から「みんなで減災推進大使」になった気象予報士 塚原美緒さんを通して、認知度の向上及び防災HPなどの紹介を行った。</p>	<p>継続して取り組む</p>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大雨や台風、大雪などで警報及び避難勧告が出た場合、ニュースやL字放送で情報を伝達 → 気象庁の土砂災害警戒メッシュ情報などをリアルタイムで紹介して注意喚起した。</li> <li>○ 警報等出た場合、「速報」で避難情報を伝達</li> <li>○ ホームページやデータ放送にニュースで放送した警報情報などを掲載</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ニュースや速報、L字を使って気象情報や避難情報を放送し早めの行動を呼びかけた。</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6.29、8.20土砂災害について放送はもちろん、7月の豪雨の検証、避難勧告・指示の「意味」についても改めて詳しく伝えた。</li> <li>○ また、ローカルドキュメント「WATCH」で2回、全国ネット「NNNドキュメント」でも1回、7月豪雨について放送</li> <li>○ 「南海トラフ」への備えについての放送</li> </ul>	<p>引き続き、放送を通じて、防災についての意識を高めてもらう。</p>
備える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ニュース番組や特別番組で防災、減災の情報を提供</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>

<課題>

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 南海トラフ地震臨時情報の周知、対応</li> </ul>
---

【株式会社広島ホームテレビ】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ニュース番組で広島県防災WEBの活用（土砂災害危険度情報のチェックの仕方など）を啓発 → ニュース番組内で防災、減災関連のレポート、特集を放送した。</li> <li>○ ニュース番組で、「防災（豪雨災害、南海トラフ地震への備えなど）をテーマにした放送</li> <li>○ 大雨警戒時にL字放送を実施し、注意や避難を呼びかけた。</li> <li>○ 7/6 豪雨災害では緊急ニュース、災害特番など放送した。</li> <li>○ 自社ホームページのトップページに、広島県防災WEBへのリンクバナーを掲載</li> <li>○ 豪雨災害後、毎月6日を中心に防災関連（復興復旧を含む）のニュース特集を放送</li> </ul>	<p>） 継続して取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自社ホームページに「広島防災」ページ開設</li> </ul>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大雨洪水警報や避難勧告などが出た場合、自社ホームページやSNS（ツイッター、フェイスブック）の自社アカウントから情報を発信 → 7/6 豪雨災害では自社ホームページなどで情報を発信した。</li> <li>○ 警報など随時ニュース速報で対応</li> <li>○ 自社ホームページのトップページに、広島県防災WEBへのリンクバナーを掲載</li> </ul>	<p>） 継続して取り組む</p>
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 7/6 豪雨災害では約1ヶ月にわたり、L字放送を実施し、避難の呼びかけ、また、生活情報を紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き、ニュース番組等で、広島県防災Webなどのチェックを促し、L字放送などで早めの避難を呼びかける</li> </ul>
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ニュース番組で、防災に関する必要な知識や情報を紹介</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>
備 える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害に備える特集・ニュースを放送 → 7/5 夕方からニュースや番組で避難を呼びかけた。</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>

<課題>

○ 豪雨災害時は、L字で避難所情報や交通情報などライフラインに関する情報を流し続けたが、それぞれの自治体や企業から情報を集める必要があった。  
問い合わせる方も、対応する方も人手が足りない中、効率化できる取組（統一した掲示板作成など）が実現できればお互いにメリットになると思う。

【株式会社中国新聞社】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知る	<p>○ 社員を対象に「安全を考える集い」を開催 → 本社員や関連会社社員を対象に呼びかけ、多くの社員が参加。社員が安全に関する知識や心構えなどを学んだ。(9月開催)</p>	<p>継続して取り組む</p>
察知する	<p>○ 平成 27 年の広島市との防災情報の提供に関する協定締結以降実施している、防災行政無線の内容を、ケーブルテレビ回線を通じて宅内に設置する専用の受信機で確認できるサービスについて継続実施</p> <p>（防災情報を自宅で聞くことができる「防災受信サービス」の普及に力を入れた。 このサービスはケーブルテレビのちゅピ COM ひろしま、ちゅピ COM ふれあいの回線を通じて、広島市の防災行政無線を受信 地震や洪水、土砂災害、有事の際の警報、避難を促す情報が流れる。）</p> <p>○ 「ちゅーピーメルマガ」を、随時改良を重ねながら、読者に対し、地震や大雨などの災害情報を発信し、素早い避難を促す。 前年度に設けた「安心安全メモ」のコーナーなどによりわかりやすい情報を目指している。</p> <p>（西日本豪雨災害の経験も踏まえ、ライフライン、交通を含め、従来より、より細かく、情報を提供していくようにした。）</p>	<p>継続して取り組む</p>
行動する	<p>○ さらなる啓発の推進</p> <p>（今回の豪雨災害報道では、これまでの災害も踏まえ、「どう命や地域を守るのか」を最重点に報道し、命を守る行動に結びつくよう、住民意識に訴えている）</p>	<p>継続して取り組む</p>
学ぶ	<p>○ 朝刊紙面を通じて、ニュースや連載特集などで、災害時の心構えや過去の教訓について報道</p> <p>（あらゆる紙面やメディア媒体を駆使し、西日本豪雨災害により、より鮮明になった防災上の問題点を示し、住民への啓発の一助につなげたいと考えている。また、素早い、的確な避難につなげるよう「命と地域を守る」を重点に、意識高揚につなげていきたい。</p> <p>・ 災害時の心構えや過去の教訓についても報道し、安全安心について、様々なテーマを掘り下げていきたい。</p>	<p>継続して取り組む</p> <p>（「避難の参考書」として地域の避難所への誘導や災害への備え、自主防災、防災マップ作りなどさまざまな視点での報道が続いている。実際の災害で実際に役立つようにアプローチしていきたい。）</p>
備える	<p>○ 社内の主要拠点において行っている、災害時に必要な備蓄について、定期的に状況を管理しながら随時積み増し</p> <p>（社内の主要拠点、防災時の備蓄を随時積み増し）</p>	<p>継続して取り組む</p>

【広島エフエム放送株式会社】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「みんなで減災」推進大使（広島エフエム放送 磯貝氏）が各生放送番組に出演して周知（1か月に1回程度出演）</li> <li>○ 「みんなで減災」推進大使として、各種イベントへ出演。ステージイベントやブースにおいて、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を周知</li> <li>〔なお、バスまつりでは、『避難マップ』を作成するワークショップを展開〕</li> <li>○ 県が開催する一斉地震防災訓練（シェイクアウト）の周知、参加呼びかけ</li> </ul>	<p>） 継続して取り組む</p>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大雨や台風接近時などには、気象情報・避難情報を特に詳しく番組を通じて周知</li> <li>〔ローカル生放送の無い、深夜や土日にも体制を組んで、特別編成を行った。〕</li> <li>○ 避難情報が発表された際には、コンパクトに正しく伝える工夫を検討した。</li> <li>○ 番組内での「防災情報メール」登録の呼びかけ</li> <li>〔「みんなで減災」推進大使の番組出演時に実施〕</li> </ul>	<p>） 継続して取り組む</p>
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県が開催する一斉防災訓練「シェイクアウト」に従業員が参加し、その後、机の下に身を守るスペースの確保などを実施</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有識者（広島経済大学 松井一洋教授）との情報交換を定期的にも実施</li> <li>○ 県内で行われている防災教室、防災訓練の周知（「防災ワークショップ」の実施）</li> </ul>	<p>） 継続して取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 7月に「防災ハンドブック」を発行し、無料配布。学びながら防災・減災力をつけてもらうため「ドリル」形式にて現在制作中。</li> </ul>
備える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大使の番組出演時に県の「備えるフェア」の周知</li> <li>○ 梅雨や台風シーズンは、番組を通して、注意喚起</li> <li>○ 過去の災害発生日に合わせ、番組等で再度取り上げ、注意喚起</li> <li>〔防災の日直前の8月最終週に「防災1WEEK」と題して、CMと番組展開で、日ごろの備えについての啓発を行った。〕</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p> <p>継続して取り組む (7月1週目には特集企画を実施予定)</p>

<課題>

- 「避難勧告等に関するガイドラインの改定」に基づき、「警戒レベル」の情報をどのように伝えていくかを検討し、社内で統一していかなければならない。

【広島地方気象台】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知 る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たな防災気象情報（土砂災害・浸水害・洪水害の危険度分布）の周知 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29.7 から提供を開始した危険度分布について、テレビ、新聞等の報道機関に対して解説を行った。</li> <li>・ 市町に広報誌への掲載を依頼し、4 市町の広報誌に掲載された</li> </ul> </li> </ul>	<p>継続して取り組む</p> <p>（大雨及び洪水警報の危険度分布を、避難判断の参考として活用してもらうよう、住民に対する周知広報を行う。）</p>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難行動の判断材料となる気象情報の意味と、とるべき行動、並びに情報の入手手段の周知等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 呉市総合防災訓練及び広島県総合防災訓練、東広島市消防防災フェアに参加し、ブース展示を利用して防災気象情報の周知等を行った。</li> <li>・ 一般・学校等を対象とした出前講座で、周知啓発を実施するとともに、広島県の防災情報メール登録の呼びかけを行った。</li> </ul> </li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害発生時の訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 徒歩参集訓練を実施し、ルートや危険箇所の確認を行った。また、緊急地震速報を利用したシェイクアウト訓練を行った。</li> </ul> </li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 企業・団体、防災関係機関が開催する研修、訓練、講演会等での、防災気象情報に関連する研修、後援等の依頼には可能な限り対応し、職員を派遣の上、防災気象情報普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国・県の大規模氾濫減災協議会や消防学校の他、防災リーダーを対象とした研修会等で防災気象情報の普及啓発を行った。</li> <li>・ 6 市町の防災担当者と警報発表事例の振り返りや、気象・防災気象情報に関する勉強会を行った。</li> </ul> </li> </ul>	<p>継続して取り組む</p>
備 える		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 顕著現象発生時の対応状況について、気象台と市町で振り返りを行い対応改善を図る。</li> </ul>

【中国地方整備局】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知 る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災教室、防災訓練、防災イベント等 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ H30.05.12 防災イベント（イオン広島祇園）</li> <li>H30.09.01 防災イベント（エディオンスタジアム）他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 降雨体験機（豪雨のを体験する装置）</li> <li>・ 3D 土石流体験装置（立体映像 CG、アニメーションや震動によって土石流のメカニズム等を体験する装置）</li> <li>・ 土石流模型実験装置（水と小石を使って土石流を体験する装置）</li> <li>・ 土砂災害について講話</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○ 「中国地方の防災に関する連絡会」における防災関連ポータルサイトの提供（関係 51 機関と情報共有）および橋梁・堤防等の「リスクの見える化」に着手</li> </ul>	<p>継続して取り組む （広島市を中心に展開予定）</p> <p>継続して取り組む</p>

<p>察知する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中国地方整備局WEBサイト等において、以下の防災情報を提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>【全般】 防災体制情報, TEC-FORCE 活動状況</li> <li>【河川】 全国川の防災情報 (洪水予報, 水防警報, ダム放流通知), 浸水想定区域図, 水文水質データベース, NHK データ放送での配信</li> <li>【道路】 道路情報提供 (交通規制, 道路気象情報), 事前通行規制区間情報, 冬季道路情報 (道路ライブ画像, 通行止め予定区間)</li> <li>【港湾】 ナウファス (全国港湾海洋波浪情報網)</li> </ul> </li> <li>○ 携帯電話事業者が提供する緊急速報メールサービスを活用した洪水情報のプッシュ型配信を広島県内全域で実施</li> <li>○ 危機管理型水位計による情報提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置した危機管理型水位計により越水危険箇所の水位情報を公開し住民の主体的な避難を促進</li> </ul> </li> <li>○ 平成30年7月豪雨で土石流被害を受けた地区でのワイヤセンサー設置による警戒</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>新規</b> 【河川】 新たに、水害リスクラインによる一般への水位情報提供を開始 切迫感やリアリティーのある河川状況を伝えるため、簡易型河川監視用カメラを開発し、2020年度までに順次整備 ※「水害リスクライン」…河川水位を上流から下流まで連続した情報として見える化</p> </div> <p>継続して取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災情報WEBサイトのリニューアルを実施</li> </ul>
<p>行動する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「中国地方の防災に関する連絡会」における情報共有・伝達訓練</li> <li>○ 多機関連携型タイムラインの策定 (太田川) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太田川水防災タイムライン検討会 (行政・交通・ライフライン・マスメディア等 32 機関) を設置し、検討中 (対象: 洪水, 内水, 高潮, 土砂災害) 継続して取り組む (平成31年3月19日策定)</li> </ul> </li> <li>○ 要配慮者利用施設について「講習会の企画調整及び運営マニュアル」を提供し、避難対応の推進を支援</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多機関連携型タイムラインの策定 (芦田川, 江の川, 小瀬川) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政・交通・ライフライン・マスメディア等からなる検討会を設置予定</li> </ul> </li> </ul> <p>継続して取り組む</p>
<p>学 ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災教室, 防災訓練, 防災イベント等 → H30.05.12 防災イベント (イオン広島祇園) H30.09.01 防災イベント (エディオンスタジアム) 他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 降雨体験機 (豪雨のを体験する装置)</li> <li>・ 3D 土石流体験装置 (立体映像 CG, アニメーションや震動によって土石流のメカニズム等を体験する装置)</li> <li>・ 土石流模型実験装置 (水と小石を使って土石流を体験する装置)</li> <li>・ 学校関係向けの出前講座の実施</li> </ul> </li> <li>○ 防災・河川環境教育の取組強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育現場と連携・協力し、防災教育の支援及び河川環境学習の支援を実施 (整備局が持っている災害時のリアルな写真や映像・データなどを提供, 気象台・地理院とも連携した取組を実施)</li> <li>・ 江の川, 太田川, 小瀬川では指導計画 (案) 等を作成し、関連学校へ情報提供済み</li> <li>・ ダムの効果 (治水・利水) 等に関する広報</li> </ul> </li> <li>○ 7月豪雨関連の記録誌のHPへの掲載</li> </ul>	<p>継続して取り組む (広島市を中心に展開予定)</p> <p>継続して取り組む (芦田川における指導計画 (案) 等を作成し、情報提供予定)</p>



【広島県市長会（広島市）】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知 る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 転入者に配布する「広島市 市民くらしのガイド」内で災害危険箇所の確認方法を周知</li> <li>○ ハザードマップのホームページへの掲載</li> <li>○ 広報誌，ホームページ，広報番組等により災害危険箇所の確認方法等を周知</li> <li>○ 指定緊急避難場所及び指定避難所について避難場所の種別，災害種別ごとの適応表示，海拔表示，多言語表示を記載した標識を設置</li> <li>○ HP「広島市防災ポータル」を運営し，活用促進のための周知を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各種広報媒体により以下の内容を広報する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害に関する一般知識</li> <li>・ 災害に対する平素からの備え</li> <li>・ 防災情報の意味</li> <li>・ 防災情報を入手した際の安全確保行動 等</li> </ul> </li> </ul> <p><u>既存の防災普及啓発冊子を更新し、「たちまち防災」として発行予定。</u></p>
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災情報メールの登録促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災教室，出前講座，防災訓練，広報誌，広報番組，ホームページ等を通じた防災情報メールの登録促進</li> <li>・ 災害時応援協定締結企業等への防災情報メールチラシの配置及び社員等への登録呼びかけ</li> </ul> </li> <li>○ 避難勧告等の避難情報の住民への伝達 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災行政無線，防災情報メール，ホームページ，SNS（ツイッター，フェイスブック），テレビ（データ放送を含む。），FAX（聴覚障害者用），緊急速報メール，サイレン，広報車等を通じて，避難情報を伝達</li> </ul> </li> <li>○ 避難勧告等の避難情報の伝達及び入手方法の周知 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急速報メールの積極的な活用による避難情報の伝達</li> <li>・ 防災教室，出前講座，イベント等の機会を利用した避難情報の入手方法周知</li> </ul> </li> <li>○ 広島市防災ポータルにより避難情報（避難準備情報・高齢者等避難開始，避難勧告等）や避難場所等の開設情報，雨量・水位などの観測情報を提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難勧告等の伝達</li> <li>○ 避難情報の入手方法の周知</li> <li>○ <u>緊急速報メールの活用の周知</u></li> <li>○ 広島市防災情報メールの登録促進</li> <li>○ <u>配信システムを更新し，小学校区単位で配信先を選択できるように改修予定</u></li> <li>○ <u>防災受信機の利用促進</u></li> <li>○ <u>Webカメラの設置補助</u></li> </ul>
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まちあるきや防災マップ作成を支援するため，防災士等の防災専門家を派遣</li> <li>○ 自主防災組織による防災訓練や防災講演会の開催</li> <li>○ 地域特性を踏まえた防災訓練の指導・助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主防災組織による防災訓練に対する補助</li> <li>○ 地域独自の防災マップ「わがまち防災マップ」の作成支援</li> </ul>
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主防災組織，企業，学校等を対象とした防災講演会，防災研修，防災教室の開催</li> <li>○ 広島市総合防災センターにおける防災研修の実施</li> <li>○ まちあるきや防災マップの作成を支援するため，防災士等の防災の専門家を派遣</li> <li>○ 防災訓練等の実施予定をホームページに掲載し，市民へ周知</li> <li>○ 住民，企業，防災関係機関等の参加による総合防災訓練，避難訓練を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主防災組織による防災講演会や研修会等の開催に対する支援</li> <li>○ 市政出前講座の開催</li> <li>○ <u>災害を追体験できる取組の推進</u></li> <li>○ <u>被災地の被害状況の映像収集・作成等</u></li> <li>○ <u>こどもを対象とした防災体験学習の実施</u></li> </ul>
備 える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 出前講座，防災訓練，ホームページ等を通じて，懐中電灯，着替え，常備薬などの非常持出品の備え及び消費期限の確認の必要性を周知</li> <li>○ 企業や各種団体が開催する防災イベント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災リーダーの養成事業の実施</li> <li>○ 企業や各種団体が開催する防災イベントと連携し，日頃からの備えを啓発</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>と連携し、非常持出品等の備えの啓発</li> <li>○ 自主防災組織等への出前講座等の開催</li> <li>○ 防災士養成講座等を通じて防災リーダーを養成</li> <li>○ 推進会議委員のHPなどで公開している防災に関する普及啓発コンテンツのリンクを、広島市HP上で公開しているコンテンツ内に掲載する。</li> </ul>	
--	---	--

<課題等>

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災情報メールの登録促進について、新規登録者数が伸び悩んでいる。</li> <li>○ 地域により防災意識に温度差がある。</li> </ul>
---

**【広島県町村会（坂町）】**

行動目標	H30 年度 of 取組状況等	令和元年度の取組等
知 る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「地震防災マップ」・「津波・高潮ハザードマップ」, 「土砂災害ハザードマップ」を転入者等に配布し啓発を実施</li> </ul>	継続して取り組む 土砂災害ハザードマップについては町内全地区の警戒区域指定が終了予定であるため、新たに作成する
察知する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災行政無線により災害情報を周知すると共に、町の自主避難先の開設情報や高台等への駐車場確保に関する情報を周知</li> <li>○ 町の登録制メールによる、災害情報や避難所等の開設情報の周知</li> <li>○ エリアメールによる、災害情報の周知（NTT ドコモ, KDDI, ソフトバンク）</li> </ul>	継続して取り組む  ○ 戸別受信機の無償貸与を開始し、避難情報をより確実に伝達
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難施設をいち早く開設する体制を庁内で整備</li> <li>○ 避難準備・高齢者等避難開始を発令する前であっても、災害の危険性が考えられる場合、また夜間になる前に自主避難所を開設</li> <li>○ 各地域の住民が、自ら判断して避難する体制を整えるため、町内の住民福祉協議会から、防災リーダーの候補者を選出していただき、「防災リーダー養成講座」を開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ ・ 地域防災リーダー養成講座 2 回開催（第 3 回～第 6 回は災害の影響により中止）</li> <li>・ 自主防災会養成講座 1 回開催（第 2 回は災害の影響により中止）</li> </ul> </li> <li>○ 消防団と協働し、町内全地域の災害に対応可能な体制を整備</li> </ul>	継続して取り組む  ○ 未定  ○ 継続して取り組む
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災リーダー養成講座の開催を予定していたものの（2 回）、災害により中止</li> <li>○ 自主防災会養成講座 1 回開催</li> </ul>	
備 える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難情報発令時に「非常持出品の携行」について防災行政無線等で周知</li> <li>○ 公共施設において非常持出品の準備を提唱。公共施設において非常持出品の展示し啓発実施</li> </ul>	継続して取り組む  ○ 町広報誌においても備蓄の呼びかけ

【広島県教育委員会】

行動目標	H30 年度の取組状況等	令和元年度の取組等
知 　　る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ハザードマップ等を活用し、災害危険箇所、避難場所、避難経路を確認。 訓練実施後に避難場所・避難経路等の見直しを実施するよう指導 → 平成 30 年度健康教育行政係担当者連絡協議会において、市町の担当者を取組内容を説明し、所管の学校において実施するよう依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ハザードマップ等を活用し、災害危険箇所、避難場所、避難経路を確認。 訓練実施後に避難場所・避難経路等の見直しを実施するよう指導 → 平成 31 年度健康教育行政係担当者連絡協議会において、市町の担当者を取組内容を説明し、所管の学校において実施するよう依頼</li> </ul>
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まち歩きや防災マップの作成による災害危険箇所等の確認 → 平成 30 年度健康教育行政係担当者連絡協議会において、市町の担当者を取組内容を説明し、所管の学校において実施するよう依頼</li> <li>○ 一斉防災訓練への参加や避難行動の確認 → 昨年度末に、一斉防災訓練の年間の予定を周知し、計画的に一斉防災訓練に参加できるように促した。</li> <li>○ 文部科学省作成の「学校の危機管理マニュアル作成の手引」を参考に危機管理マニュアルの作成・見直しを図るよう周知するとともに、豪雨災害後に、通学路の危険箇所を確認すること、危機管理マニュアルの見直しを実施するよう周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まち歩きや防災マップの作成による災害危険箇所等の確認 → 平成 31 年度健康教育行政係担当者連絡協議会において、市町の担当者を取組内容を説明し、所管の学校において実施するよう依頼</li> <li>○ 一斉防災訓練への参加や避難行動の確認 → 前年度末に、一斉防災訓練の年間の予定を周知し、計画的に一斉防災訓練に参加できるように促した。</li> <li>○ 文部科学省作成の「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育(改訂版)」及び「学校の危機管理マニュアル作成の手引」を参考に危機管理マニュアルの作成・見直しを図るよう周知するとともに、豪雨災害後に、通学路の危険箇所を確認すること、危機管理マニュアルの見直しを実施するよう周知</li> </ul>
学 　　ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町内会、自主防災組織等、地域と連携した防災訓練の実施 → 平成 30 年度健康教育行政係担当者連絡協議会において、市町の担当者を取組内容を説明し、所管の学校において実施するよう依頼</li> <li>○ まち歩きや防災マップの作成による災害危険箇所等の確認 → 豪雨災害後に、通学路の危険箇所を確認し安全確保を図ることを徹底</li> <li>○ 学校における防災教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災教育を推進するための教職員研修の実施(防災教育を推進する教職員への研修が充実するよう研修内容を検討)</li> <li>・ 学校安全担当者を対象としたHUGやDIG、目黒メソッド等を活用した図上訓練や担架搬送体験の実施</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 町内会、自主防災組織等、地域と連携した防災訓練の実施 → 平成 31 年度健康教育行政係担当者連絡協議会において、市町の担当者を取組内容を説明し、所管の学校において実施するよう依頼</li> <li>○ まち歩きや防災マップの作成による災害危険箇所等の確認 → 地域の危険箇所の確認及び地域の災害碑等をめぐらなどして、防災マップの作成・活用を依頼</li> <li>○ 学校における防災教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「防災教育の手引[別冊]」を作成し、実践事例等を活用した「防災に関する授業」の推進</li> <li>・ 早期に防災教育を推進するための教職員研修を実施(防災教育を推進する教職員へ</li> </ul> </li> </ul>

<p>学 ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「防災教育の手引」を活用した「防災に関する授業」の推進</li> <li>・ 「防災教育の手引」を改訂し、土砂災害に対応した防災教育が推進されるよう新たな教材作成に取り組んだ。</li> <li>・ 共通の教材を活用しての、災害危険箇所、避難場所、避難経路等について、全学校及び家庭における確認</li> <li>・ 専門機関等（国交省、広島地方気象台等）と連携した防災教育等の推進</li> </ul> <p>○ ホットライン教育ひろしまで公民館職員に、公民館等で防災等をテーマにした学習講座を企画する際に活用できる情報を提供</p> <p>→ 公民館等における地域の防災に関する啓発活動等に対し、土砂災害防止に関する啓発・伝承パネル等の教材情報を提供し、10館で活用があった。</p>	<p>の研修が充実するよう研修内容を検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校安全担当者を対象としたHUGやDIG、目黒メソッド等を活用した図上訓練や担架搬送体験の実施</li> <li>・ 共通の教材を活用しての、災害危険箇所、避難場所、避難経路等について、全学校及び家庭における確認</li> <li>・ 専門機関等（国交省、広島地方気象台等）と連携した防災教育等の推進</li> </ul> <p>○ホットライン教育ひろしまで公民館職員に、公民館等で防災等をテーマにした学習講座を企画する際に活用できる情報を提供</p>
------------	---	---

<課題等>

<p>知 る</p>	<p>◆ 想定外の自然災害に対応できるよう、避難方法・避難経路等の見直しを図る必要がある。</p>
<p>行動する</p>	<p>◆ 主体的に危険予測・危険回避できる児童生徒の育成を図るために、効果的な防災教育の充実を図る必要がある。</p>
<p>学 ぶ</p>	<p>◆ 豪雨災害を踏まえた防災教育の推進を図る必要がある。情報を活用した講座事例を紹介するなど、さらに減災に関する学習機会が拡大するよう支援していく必要がある。</p>

【広島県】

行動目標	H30年度 of 取組状況等	令和元年度の取組等
<p>知 る</p>	<p>○ 災害危険箇所、避難場所、避難経路の確認の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域、企業、学校等の参加による「一斉防災教室」の実施（5/14～6/6） → 参加者約61万1千人</li> <li>・ テレビ・ラジオ等を通じた定期的な広報の実施</li> <li>・ 防災教室、広報誌、広報番組、イベント等において、「広島県防災Web」やポータルサイト「みんなで減災 はじめの一歩」などの利用促進</li> <li>・ 県内の大規模イベント（「安佐南防災フェス（5/12）」、「ひろしまバスまつり（9/23）」、「空の日まつり（10/14）」、「防災イベント [段原ショッピングセンター]（3/3）」等における、「みんなで減災」推進大使による呼び掛け</li> <li>・ 県内企業訪問による従業員及びその家族による実施働きかけ（6社）</li> <li>・ 企業向けセミナーの実施 【大規模事業者向け】 3/6 福山, 3/8 広島</li> </ul>	<p>引き続き取り組む</p> <p>なお、今年度新たに、県内中小事業者等に対する事業継続計画（BCP）の策定支援を次のとおり行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>1 目的 災害等の緊急時に強靱かつ柔軟な事業活動ができる環境の整備</p> <p>2 実施予定</p> <p>(1)事業継続計画(BCP)の策定指針やマニュアル等の作成</p> <p>(2)事業継続計画(BCP)策定講座等の開催</p> <p>(3)事業継続計画(BCP)共助推進体制の整備</p> <p>(4)事業継続計画(BCP)策定推進フォーラムの開催</p> </div>

<p>知 　　る</p>	<p>【中小企業者向け】  2/6 広島, 2/7 福山, 2/8 東広島</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周辺の災害リスクや、連絡先などが記入でき、収集すべき正確な情報や、避難行動の種類などを簡潔に記載した事業者向けの「ポケットカード」(県作成)を希望者に配布(みどりホールディング 他)</li> </ul> <p>○ 土砂災害警戒区域等の指定に係る基礎調査の実施等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 89 小学校区の基礎調査を実施し、3/26に「基礎調査実施計画」に基づく基礎調査が完了</li> <li>・ 県 HP で基礎調査の結果や指定区域を随時更新して周知を行うとともに、基礎調査範囲や説明会開催予定も掲載して周知した。</li> </ul> <p>〔 7月豪雨災害後は、ホスティングサービスを活用した周知にも取り組んだ。〕</p> <p>○ 土砂災害警戒区域等の指定住民への説明会の開催等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 97 小学校区の住民説明会を開催</li> <li>・ また、説明会の開催案内にあたり、説明会で使用する土砂災害警戒区域等位置図に避難場所等を併せて掲載したハザードマップを対象地域の全戸に配布した。</li> </ul> <p>○ ため池ポータルによる情報の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ため池ポータル」を新たに開設し、ため池の位置、名称、浸水想定区域等の情報について、GIS(地理情報システム)を活用して閲覧できるシステム(広島県ため池マップ)を構築し、3/29からその一部の503箇所を公表した。</li> </ul>	<p>引き続き取り組む</p> <p>〔 年度末までに全ての小学校区の区域指定を完了する。〕</p> <p>また、新たに、ヤフー株式会社と連携した「防災マップ」の共同開発、自主防災組織の代表者を対象とした防災教室の開催、高齢者を対象としたポスターやパンフレット等の作成・配置など、避難につながる取組を推進する。</p> <p>引き続き取り組む</p> <p>〔 引き続き説明会を開催し、年度末までに全ての小学校区の区域指定を完了する 〕</p> <p>引き続き取り組む</p> <p>〔 引き続きデータの整理を行い、マップ上で公表するため池を順次拡大する。 〕</p> <p>○ 国の「避難勧告等に関するガイドライン」の改定により、導入されることとなった5段階警戒レベルの防災情報の提供について、出水期までに県民に浸透させるための緊急的な啓発の取組を行う。</p>
<p>察知する</p>	<p>○ 気象情報・防災情報の意味の周知や、防災情報メールへの登録促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報道機関との連携による、テレビ、ラジオ等を通じた、定期的な広報の実施〔再掲〕</li> <li>・ 県内の大規模イベント(「安佐南防災フェス(5/12)」,「ひろしまバスまつり(9/23)」,「空の日まつり(10/14)」,「防災イベント[段原ショッピングセンター](3/3)」)等における、「みんなで減災」推進大使による周知〔再掲〕</li> <li>・ 県広報番組、県広報誌等を通じた防災情報メールの登録の呼びかけ</li> <li>・ 県内企業を訪問し、従業員及びその家族による登録を働きかけ〔再掲〕</li> </ul>	<p>〕 継続して取り組む</p>

<p>察知する</p>		<p>○ 新たに、ヤフー株式会社と連携した「防災マップ」の共同開発，自主防災組織の代表者を対象とした防災教室の開催，高齢者を対象としたポスターやパンフレット等の作成・配置など，避難につながる取組を推進する。〔再掲〕</p>
<p>行動する</p>	<p>○ 災害の状況に応じた適切な避難行動等の周知や防災訓練等への参加の呼びかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業向けに集計機能を追加した『防災減災チェック』のコンテンツを作成し，周知(3/12)</li> <li>・ 報道機関との連携による，テレビ，ラジオ等を通じた，定期的な広報の実施〔再掲〕</li> <li>・ 県内の大規模イベント（「安佐南防災フェス(5/12)」，「ひろしまバスまつり(9/23)」，「空の日まつり(10/14)」，「防災イベント〔段原ショッピングセンター〕(3/3)」）等における，「みんなで減災」推進大使による周知〔再掲〕</li> <li>・ 一斉防災教室の実施〔再掲〕</li> <li>・ 県内企業を訪問し，従業員及びその家族に訓練等への参加を働きかけ〔再掲〕</li> <li>・ 地域，企業，学校等の参加による「一斉地震防災訓練※」の実施(11/1) → 参加者約53万人</li> </ul>	<p>） 継続して取り組む</p>
<p>学 ぶ</p>	<p>○ 女性が参画する団体・サークル等を対象にした，防災活動の女性リーダーの育成(H29～)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「女性のための防災プログラムトレーナー講座」を開催(6/14 広島 35名，6/28 福山:31名，7/5 三次:22名，11/17 世羅:8名)。これまでの講座受講者のうち，58名の方がそれぞれの活動の場で防災教室を実施(講座受講者が実施した防災教室の参加者合計1,236名)</li> </ul> <p>○ 高齢者サロン等の地域コミュニティにおける防災教室の実践促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者サロン等における必要な防災教室教材のうち，「初級編」を完成</li> </ul> <p>○ 企業向けに集計機能を追加した『防災減災チェック』のコンテンツを作成し，周知(3/12)〔再掲〕</p> <p>○ 報道機関と連携した定期的な広報により，防災教室や防災訓練等への参加促進，災害から命を守る行動などについて周知〔再掲〕</p> <p>○ 県内の大規模イベント（「安佐南防災フェス(5/12)」，「ひろしまバスまつり(9/23)」，「空の日まつり(10/14)」，「防災イベント〔段原ショッピングセンター〕(3/3)」）等において，「みんなで減災」推進大使による防災教室を実施</p>	<p>継続して取り組む</p> <p>〔 ・ トレーナー養成講座開催(6～7月，県内6箇所) ・ 受講者数の増加を図るため，新たに『体験会』の開催など，トレーナー養成講座の認知度を上げるための取組を行う。(5月に体験会開催) 〕</p> <p>継続して取り組む</p> <p>〔 「初級編」の教材を使っただけの，防災教室の担い手になっていただく方の掘り起しと養成を行うとともに，自主防災アドバイザー等，専門的知識を有した方に活用していただくことを想定した「中級・上級編」の教材の作成に引き続き取り組む。 〕</p> <p>） 継続して取り組む</p>

<p>学 ぶ</p>	<p>〔再掲〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業者向けセミナーにおいて、企業や事業所における防災に関する取組事例などの学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大規模事業者向けセミナー → 3/6 福山, 3/8 広島</li> <li>・ 中小企業者向けセミナー → 2/6 広島, 2/7 福山, 2/8 東広島</li> </ul> </li> </ul> <p>〔再掲〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県内企業への訪問の一環として、訪問先からの要請に基づき、社内研修等のための講師を派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不動産保証協会研修会における総ぐるみ運動の周知（9/3 福山, 9/4 広島）</li> </ul> </li> <li>○ 周辺の災害リスクや、連絡先などが記入でき、収集すべき正確な情報や、避難行動の種類などを簡潔に記載した事業者向けの「ポケットカード」を作成し、希望者に配布〔再掲〕</li> <li>○ 県防災 Web に過去の災害記録を掲載（地域の砂防情報アーカイブ、広島県の砂防資料館等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地域の砂防情報アーカイブ」において、地域住民などから、過去の土砂災害の写真等 323 点の提供を受けた。</li> <li>・ また、土砂災害警戒区域等と過去の災害位置や石碑の場所を重ねて表示させるとともに、操作性の向上を図るなどのリニューアル行った。</li> </ul> </li> <li>○ 県内の小中学校に職員を派遣し、「砂防出前講座」を実施（小中学校 25 校）</li> </ul>	<p>継続して取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近年多発する山地災害や防災対策への理解を深めるとともに、防災に対する関心を高めていただくため、学生対象の出前講座を開催する。</li> </ul>
<p>備 える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 報道機関と連携した定期的な広報により、非常持出品の備えなどについて周知</li> <li>○ 「みんなで減災」備えるフェアを開催し、ホームセンターやショッピングセンターなどの生活に身近な場所において、非常持出品の特設コーナーを設置するなど、非常持出品として備えるべきものや、ローリングストックといった備え方の工夫などを周知 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9/1～9/17 37 社, 1,754 店舗参加</li> <li>・ 3/2～3/17 38 社, 2,287 店舗参加</li> </ul> </li> <li>○ 上記各期間中、「みんなで減災」推進大使による「親子で学べる防災教室」などを開催</li> <li>○ 防災リーダーの養成及び自主防災組織の育成強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>〔 自主防災組織の設立や活発化の支援及び自主防災アドバイザーの育成・派遣 〕</li> <li>→ ・ 自主防災組織の設立促進や活性化を図るため、自主防災アドバイザーを組織の設立</li> </ul> </li> </ul>	<p>継続して取り組む</p> <p>継続して取り組むとともに、家電量販店、大手家具販売店等との連携の構築に新たに取り組む</p> <p>継続して取り組む</p>

<p>備える</p>	<p>機運が高まらない地区や活性化していない組織へ派遣し、継続的に指導助言した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ また、自主防災アドバイザーの指導力の維持・向上を図るため、「スキルアップ研修」を実施した。</li> <li>・ アドバイザー登録者数：215名・1団体（平成30年度末現在）</li> </ul>	<p>）継続して取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主防災組織による避難の呼びかけの体制づくり支援を実施し、自主防災組織の機能強化を図る。</li> </ul>
------------	--	---